

イチゴうどんこ病の発生が多く見られています

ー予防を主体とした防除を徹底しましょうー

10月に実施したいちごの発生予察調査において、イチゴうどんこ病が平年に比べ多く発生しています（図1）。気象庁の1か月予報によると、今後1か月の平均気温は平年よりも高い見込みで、本病の発生に好適な条件となります。予防を主体とした防除を徹底しましょう。

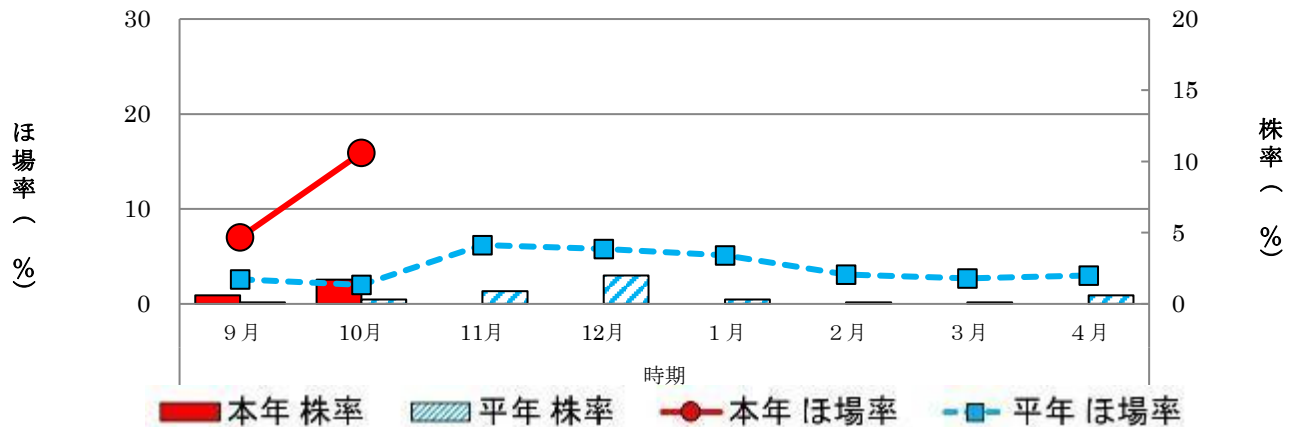


図1 イチゴうどんこ病の発生状況

【防除対策】

- (1) 予防散布を基本とし、発生が認められる場合は、保温開始前に防除を徹底し施設内でのまん延を防止する。
- (2) 紫外線（UV-B*）照射は、本病の発生抑制に効果的である。

*UV-B 使用における注意点

- ・人体に影響を与える可能性があるため、施設に入る際には、必ずUV-B ランプを消灯する。
- ・UV-B ランプの照射により葉焼け症状が発生した場合には、照射時間を短くする。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/green/documents/20240423144717.pdf>

- (3) 施設内の湿度が高くなりすぎないように換気を行うとともに、適正な温度管理に努める。
- (4) 下葉かきや適切な摘葉により通風を確保するとともに、発病部位は取り除きほ場外で処分する。
- (5) 薬剤散布に当たっては展着剤を加用し、葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。また、耐性菌の発生を防ぐため、RAC コードの異なる薬剤をローテーションで使用する（表）。
- (6) 硫黄くん煙剤の使用にあたっては、天敵に悪影響を及ぼす可能性があるため、天敵導入ほ場では長時間の処理を避ける。



図2 葉表の病徴



図3 葉裏の病徴



図4 果実の病徴



図5 果柄の病徴

表 イチゴうどんこ病に登録のある主な薬剤（令和8（2026）年10月9日現在）

農薬名	希釈倍数	使用時期	本剤使用回数	RACコード
サンリット水和剤	2000～4000	収穫前日まで	3回以内	F:3
パンチョTF顆粒水和剤	2000	収穫前日まで	2回以内	F:U06・3
ベルコートフロアブル	2000～4000	収穫前日まで（生育期）	5回以内	F:M07
フルピカフロアブル	2000～3000	収穫前日まで	3回以内	F:9
アイーナ20フロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	F:52
ショウチノスケフロアブル	2000	収穫前日まで	2回以内	F:U13・9
スクレアフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	F:11
フセキワイドフロアブル	1000	収穫前日まで	4回以内	F:M07・53
シグナムWDG	2000	収穫前日まで	2回以内	F:11・7
アフェットフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	F:7
ケンジャフロアブル	1500	収穫前日まで	3回以内	F:7
パレード20フロアブル	2000～4000	収穫前日まで	3回以内	F:7
カナメフロアブル	4000	収穫前日まで	4回以内	F:7
クロスアウトフロアブル	3000～4000	収穫前日まで	3回以内	F:50
カリグリーン	800～1000	収穫前日まで	－	F:NC
ジーファイン水和剤	750～1000	収穫前日まで	－	F:NC・M01
サンヨール	500～1000	収穫前日まで	6回以内	F:M01
インプレッションクリア	1000～2000	発病前～発病初期	－	F:BM02
ボトキラー水和剤	1000	発病前～発病初期	－	F:BM02
細井硫黄粒剤 三光硫黄粒剤	6～16g/2000m ³ (高さ2m、床面積1000m ²)		－	F:M2 I:UN

農薬の使用にあたっては使用方法及び使用上の注意事項を確認し適切に使用する。

詳細については[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針](#)を参照。

詳細は、農業総合研究センター 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、
 農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）
 でもご覧いただけます。

